

松の緑

長唄

全詞章

作詞者不詳

四世杵屋六三郎（六翁）

作曲

嘉永年間（一八五〇年頃）

〔本調子〕 今年より、千度迎ふる春毎に、なほも深めに、松の緑か禿の名ある
二葉の色に太夫の風吹き通ふ、松の位の外八文字、華麗を見せたる蹴出し棲
よう似た松の根上りも、ひとつ囲ひの籬にもるる、廓は根引きの別世界
世々の誠と裏表、比べごしなる筒井筒、振分け髪もいつしかに
老となるまで末広を、開きそめたる名こそ祝せめ